資料１

かかみがはら暮らし委員会

ヒトとヒトをつなぎ、自分事で動いてくれるヒトがマチに増え
結果、マチがよくなっていく。

かかみがはら暮らし委員会設立のきっかけ

各務原市の公園【学びの森】を中心とした
市役所のイベント〖マーケット日和〗が、
５年前に開催されました。
このイベントを企画、運営していたのが、
各務原市の名物職員、廣瀬真一氏。
各務原市が主催する音楽フェス〖OUR FAVORITE THINGS〗や
市民ライターが街を記事にしてプロモーションしていくWEBサイト〖Our Favorite kakamigahara〗、
DIY型空き家リノベーション事業などの仕掛け人。

マーケット日和

廣瀬氏の部署が変わり、関わることができなくなり
〖マーケット日和〗がクオリティを維持しながら、
継続していくことが困難だと考え、
市内在住でお店を経営をしている自分たちに声がかかり、
マーケット日和市民企画委員がつくられました。
この時に集まったメンバーが、のちにかかみがはら暮らし委員会をつくっていきます。
〖マーケット日和〗は毎年１１月３日（文化の日）に開催され、
昨年で５回目を迎えました。
前回は約４万人が来場され、内容も毎年進化していっています。

マーケット日和2018

公民連携、市民協働

現在〖マーケット日和〗は、企画、プロモーション、
ブランディングなどを民間（かかみがはら暮らし委員会）が行い、
事務局、警備、許可申請など市役所が行っています。
行政だからできることできないこと、民間だからできることできないことを、お互いカバーしあいながら共有しながら、毎回新しい挑戦を繰り返しています。
〖マーケット日和〗が、市役所のいろんな課を横断しながら、
課同士の連携も生まれてきました。

マーケット日和の特徴

今年６回目を迎えるマーケット日和ですが、

昨年から出店はコラボーレーションのみというカタチをとっています。

マーケット、マルシェがいろんなところで行われるようになって差別化を生みながら、新しいことに挑戦していくねらいと、

出店者同士がつながっていくことで、当日出店して終わりにならず、当日までに物語が生まれ、自分事になりそこからひろがっていくことも考えています。

カカミガハラスタンドのきっかけ

マーケット日和の会場である学びの森には、
雲のテラスと呼ばれる場所があり、
喫茶店が営業されていました。
そちらの廃業にあたりプロポーザルが行われ、
マーケット日和に来場される方を日常使いで、
公園にきてもらうために、
マーケット日和市民企画委員だった自分たちは、カフェをやることを提案し、選ばれました。
第3回目のマーケット日和のあとに、カカミガハラスタンドをオープンしました。

KAKAMIGAHARA STAND

かかみがはら暮らし委員会

カフェ運営をするために、マーケット日和市民企画委員だった5人が理事となり、

一般社団法人かかみがはら暮らし委員会を設立します。

ヒトとヒト、ヒトとコト、ヒトとモノをつなげていくことで、新たな面白い、楽しいが生まれ、関わるヒトが増え、自分事として、楽しめる、動くヒトが増えていけばマチはきっと面白くなるはず。

そんな想いをもってスタートしていきました。

カカミガハラスタンドのポジション

クラウドファンディングで支援を受けて、
スタートしたカカミガハラスタンドは、
文化発信基地というポジションとして、多くのイベントを行いました。
いろんなタイプのイベントをやることで、多くの関わりしろと幅をつくるように意識。
イベントをすることで、カカミガハラスタンドというカフェを知ってもらい、カフェのファンにしていくねらいもあわせながら、
市内外の面白そうなヒトたちと、カフェという場所を使って、
文化をコミュニケーションツールとし、
どんどんヒトをつなげていきました。

寄り合い

暮らし委員会の活動の中でもっともコミュニティが生まれていくのが、
毎月第1水曜日に行わる【寄り合い】です。
市内外問わず、誰でも参加して、
自分がやりたいこと、
疑問に思ってること、
好きなことを自由に話して、あえて着地点をつくらないゆるい集まり。
ここで出会った人同士が何かはじめてくれたらおもしろいし、
いろんなヒトの話をきくだけで、十分楽しい。
毎回20人〜30人の方が参加してくれ、
ちゃんと新規の方が5人くらいみえます。
遠くから車で3時間くらいかけてみえる方も普通にいます。

かわいい

部活動

【寄り合い】から生まれていくのが、部活動です。
この部活動の基本は部長を、自分達でやらないことです。
部長を外につくることで自分事で動く人を増やし、自分達で考え、自分達のペースで面白くしていく。
そのサポートをするのが暮らし委員会となります。
カラダ部、珈琲部、読書部、カルカソンヌ部、銭湯部、シネマ部、アクティ部、カメラ部、sake部など10以上の部活動が活動しています。

sake部

今回は、だいぶ面白くなってきている2つの部活動をご紹介します。
まずは、Sake部です。
部長は元カカミガハラスタンドのスタッフなのですが、活動範囲がどんどんひろがっていっています。
日本酒をいろんなヒトに楽しんでもらいたいと、いうところから始まったのですが、蔵元へいったり、
大学教授とsake部部長が、トークイベントをおこなったり、
右の写真は、sake部のイベントの時のものですが、日本酒と音楽とアートとのコラボで、イベントで会場は満員でした。
こちらの会場はとなりの岐阜市です。

カメラ部

もうひとつご紹介したいのが、部活動の中で一番部員数の多いカメラ部です。
現在は40人くらいいるそうです。
このカメラ部には自分達が撮る活動もあるのですが、特徴的なのが、
【かわいい子には『カメラ』をさせよ】です。
親さんを完全に排除して子供たちとカメラ部だけで写真を自由に撮るワークショップで、過去7回開催されています。
毎回すぐ満席となります。
リピーターの子供たちが多く、中には習い事に、カメラと書く子たちもでてきました。

かわいい子には“アート”をさせよ

カメラ部の活動がさらに進化を遂げました。
【かわいい子には『アート』をさせよ】
が先月開催されました。
今回はカメラだけではなく、8つのアート
ブースから2つ選んで子供たちだけで、
アートを体感、学べるイベントです。
木工、コラージュ、カメラ、絵画、造形、
書、染色、デザイン
公園で開催される子どものためのアート
フェスです。

部活動のまとめ

部活動でおこなわれるイベントは、部員達によって企画、運営されていきます。

暮らし委員会は、告知、サポートなどが中心です。

暮らし委員会が企画したものを、誰かにやってもらうのではなく、

関わる人たちが自分達で考え行動していくので、自分事になり、どんどん活性していくし、継続していく。

行政がやっていないからエリアをどんどん飛び越えて、さらに違う場所で新たな人がつながっていき、ひろがっていく。

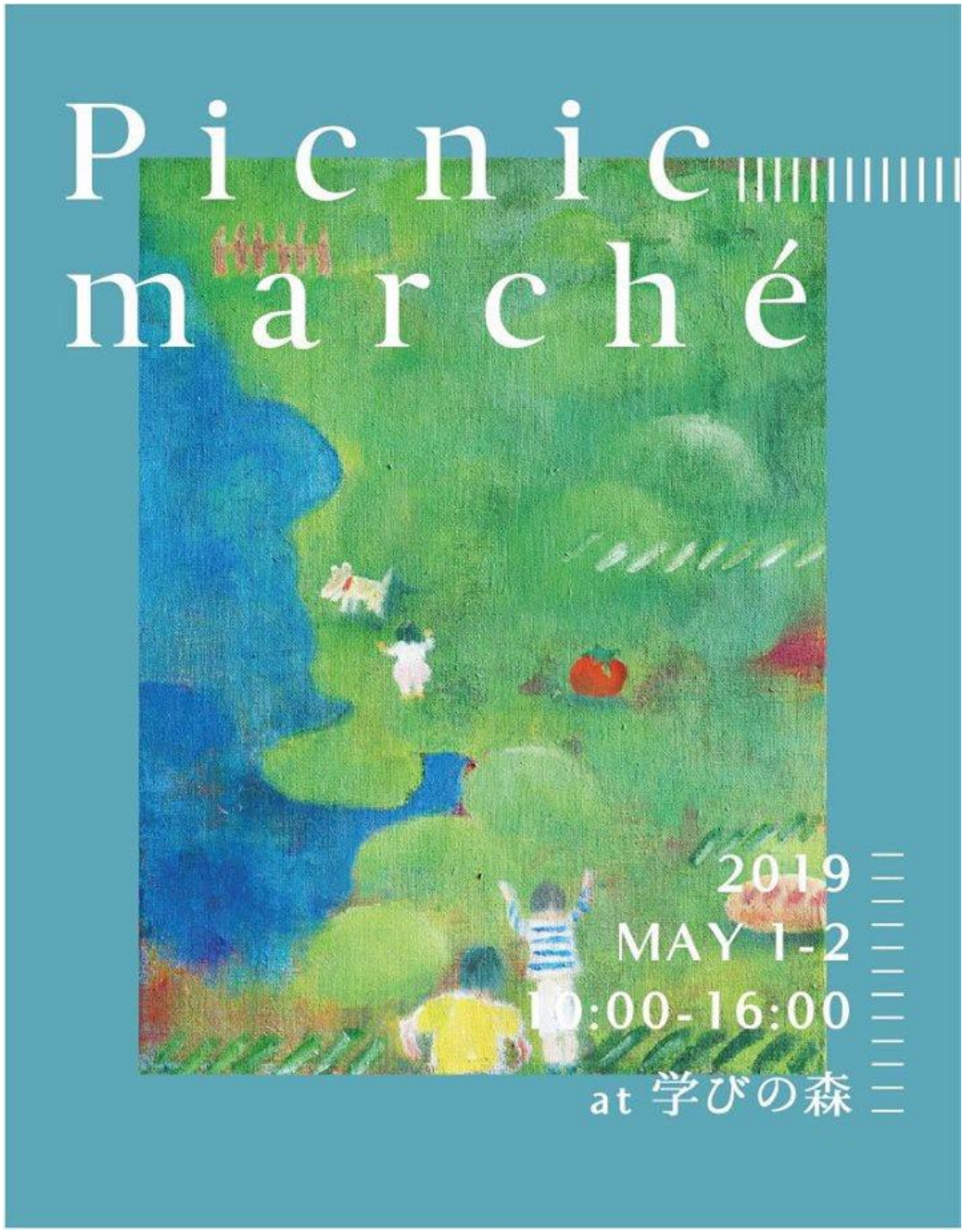
いい意味で予想外の動きに派生していくのが部活動の面白さです。

PIN

昨年の末、暮らし委員会にとっても新たなうれしい動きがありました。
【寄り合い】によって出会ったメンバーが新たな団体を立ち上げたのです。
それが〖Ｐin〗です。
アート、食、音楽、イベントで各務原のいい部分を発掘し交流拠点をつくる団体です。
この団体は、福岡から移住してきた絵の先生、Ｕターンしてきた芸術家、市外に住みながら市内で農家を営む方たちが中心となっています。
右の写真は、クリスマスマーケットをおこなったときの写真です。

Ｐinの活動

5月に〖Pin〗のマルシェが行われます。
このマルシェもカカミガハラスタンドがある公園【学びの森】で行われます。
こちらのイベントに対しても暮らし委員会としてはサポートしていこうと思います。
このようにして、公園、カフェという場をいろんなヒトでシェアして、いろんなコトがおきていくことで、どんどんヒトがつながり、場所の価値もあがっていきます。
自然とつながるヒトたちも世界観、言語、クオリティが共有しやすく、ちゃんとお客さんになる人たちもシェアしやすいのも重要なことです。
このへんがイベントにいろんな色、属性をいれこんでしまう行政には、苦手な部分となります。



移住者のシゴト

〖Pin〗の楠さんは、昨年7月に福岡県の糸島から移住してきました。
楠さんは、絵画教室とドライフラワーのお店『siroi』を市内で開業しています。
移住してきた楠さんの一番の不安は、シゴトだったといいます。
結果的に、行政側のサポート、そして【寄り合い】のつながり、暮らし委員会のつながりで、楠さんはいろんなところで、絵のワークショップなどを行い、その結果、地元のタウン誌の取材きてひろがっていきました。
民間のつながりは、さらにエリアを越えていきますので、どんどんシゴトにもつながっていっているようです。
自分事で動いているヒトたちのつながりは、どんどんシゴトもうまれていきます。

新かかみがはら暮らし委員制度

今年、暮らし委員会には新たな動きがありました。

暮らし委員を増やしてさらに、アクションがうまれやすい状況をつくっていくということです。

暮らし委員会には、いろいろなパスがなげられてきます。

理事のメンバーだけで、

新しいことに挑戦していくのは限界があり、

暮らし委員の中からこんなことやっていこうをどんどん多くのヒトでシェアして、動きやすくして、

興味あるひとたちがチームを組んですすめていき、同時にモノゴトをすすめていく。そんなイメージですすめていきます。

GIFUHALL

今年の7月、暮らし委員会を一緒にやっているデザイン会社リトルクリエイティブセンターが、東京に新たな拠点を設けます。

それがGIFUHALL

岐阜を全国に発信していくアンテナショップで、

岐阜をキーワードに《ひと、もの、こと》が交わる社交場となります。

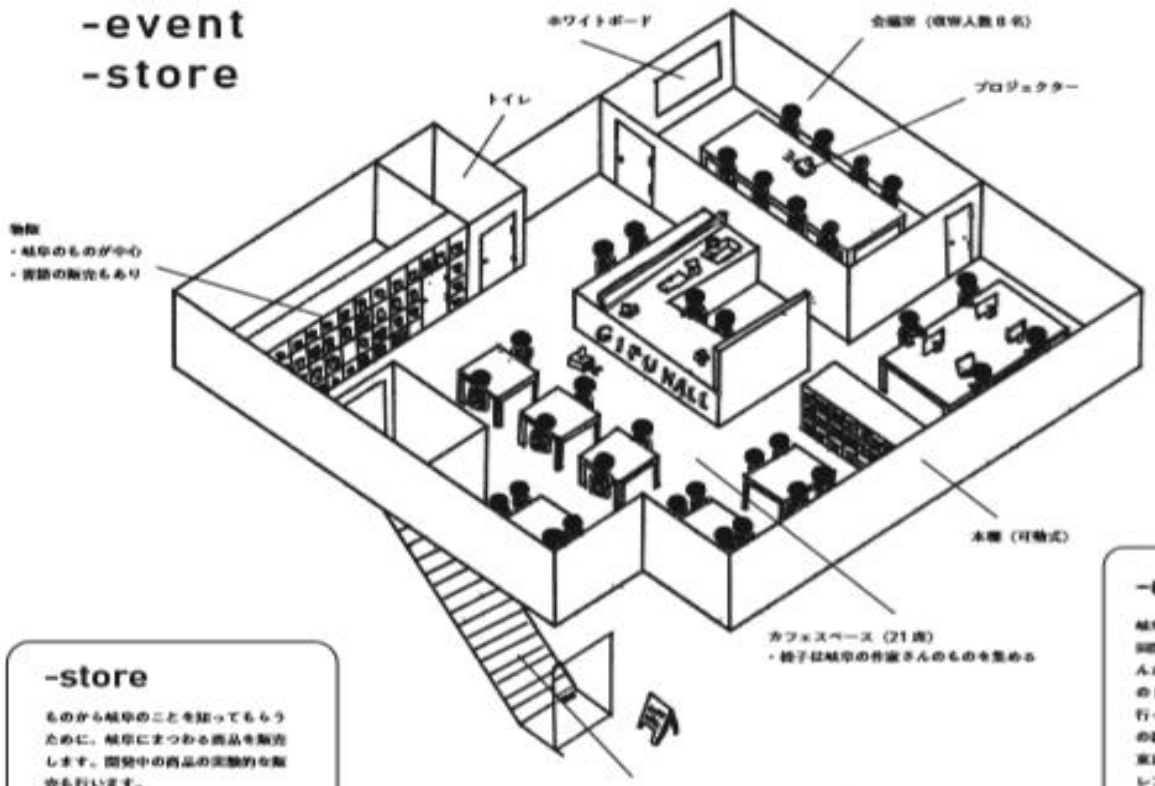
岐阜のモノの販売するお店、交流の場となるカフェ、岐阜にまつわるイベント、3つが柱となります。

そして、暮らし委員会はここをつかい新たなつながりを模索していきます。

岐阜県を発信するアンテナショップの概要

GIFU HALL

-cafe
-event
-store



-store

ものから岐阜のことを知ってもらうために、岐阜にまつわる商品を販売します。開発中の商品の実験的な販売も行います。

-cafe

社交場の中心となるのがカフェです。ドリンクの提供を中心とし、岐阜と東京の人々の社交場として営業します。一部、電源やwi-fi環境を整え、仕事場としても利用できるような席も用意する予定です。（テーブル、カウンター21席）

-event

岐阜にまつわるイベントを週2〜3回開催します。みんなで食事を楽しんだり、岐阜にゆかりあるゲストのトークを聞いたり、会議会場を行ったり。ここから、岐阜と東京の新たなつながりが生まれたり、東京で何かやってみたい人のチャレンジの場にしていきます。スペースのレンタルも可能です。

住所：東京都台東区上野桜木 1-4-5 2 階
※1 階には建築事務所 MARU. architecture が入居。
近隣に東京藝術大学、東京大学、明治大学など大学が多く、若い世代への波及効果が見える。
広さ：30 坪

（JR 鶯谷駅より徒歩 10 分、JR 上野駅より徒歩 20 分）

意外に難しい地域連携

民間な立場でいうと、エリアという概念はあまりありません。

岐阜にもそれぞれの地域にそれぞれの面白いヒトたちが、面白いコトややっています。

ただ、地域で連携することは難しいところがあります。

今回GIFUHALLという点を外にひとつおくことで、中の点が急につながりやすくなるのです。

岐阜を発信していくという共通のビジョンを持てるからです。

暮らし委員会は、GIFUHALLを使って岐阜の中の面白いヒトたちをつなげていくことで、さらにアクションが生まれやすくなっていくと考えています。

岐阜と他の県を東京でつなげる

例えば、埼玉、奈良、岐阜の海なし県トークを、
東京という場所でやってみる。
いろんな県がつながることで、それぞれの面白さがわかります。
自然と岐阜を知るヒトも増え、興味をもってもらえる。
GIFUHALLで、いろんなイベントを暮らし委員会で考えています。
中と外をつなげていくことで価値がうまれるし、
中の価値は、外からの方がみつけやすい。
各務原、東京という拠点をもつことで、つながりとひろがりの掛け算が生まれていきます。

これからの暮らし委員会

新かかみがはら暮らし委員会制度、
sake部、カメラ部、PIN、
GIFUHALL、
多くのヒトが暮らし委員会とつながりアクションをおこしていく。
これらのアクションを市内外、県外へつなげ、ひろげていく。
ヒトという点が、暮らし委員会をつうじて線になっていく。
自分達にエリアはあまり関係ない。
どこでつながって何が起きるか、わからない！
だから、つながるし、ひろがるし、面白い！

結果、マチがよくなればいい。

中のことを中だけで完結してしまうのが一番もったいない。

エリアを飛び越えてつながっていくことでその中で自分達が住むマチのことを面白くおもってくれるヒトもでてくる。

ひょっとしたら移住するかもしれないし、創業してくれるかもしれない。

そんな誰かが関われる余白のあるマチ、活動、暮らし委員会。

面白いヒトやコト、店が増えたらきっとマチは楽しくなる。

まちづくりの主役は自分達ではなく、

時間、お金、身体を使って自分らしく楽しんでいく自分達ではない他の誰か。

暮らし委員会がやっていることはその土壌作り。

カカミガハラスタンドは、関係人口を増やしていく関係案内所。

そして、マチの日常の風景が変わっていくはず。